

第1章 人口

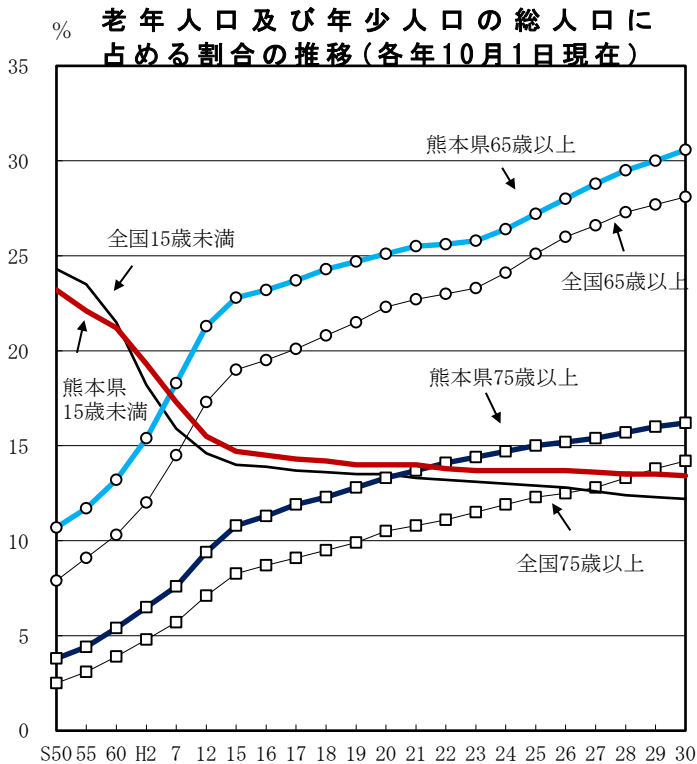
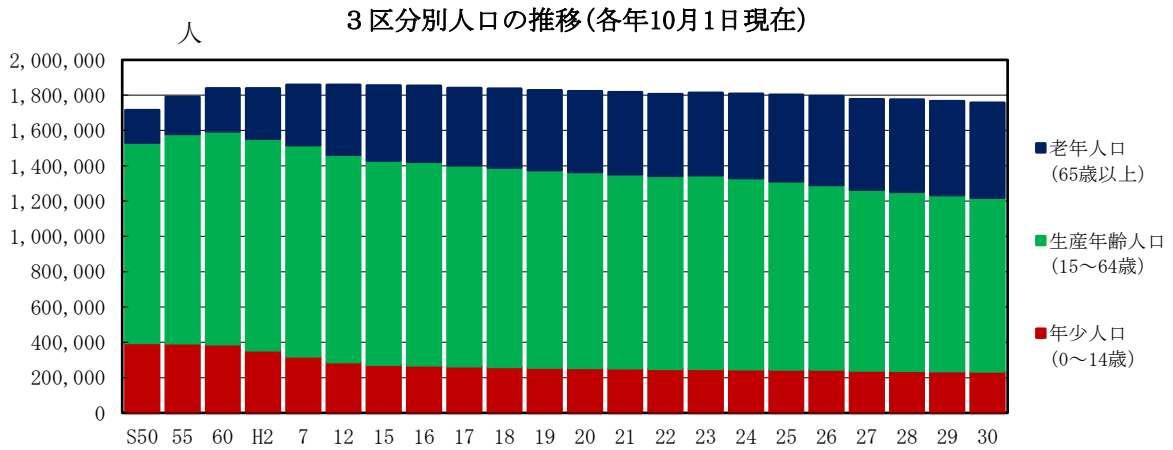
(1) 年少人口、生産年齢人口が減少し、老年人口のみ増加

本県の人口は、平成14年から減少傾向であり、前年より9,076人減少した。

人口の推移を年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15～64歳）、老年人口（65歳以上）の3区分別にみると、年少人口は昭和50年の59.3%にまで減少している。

平成30年は、年少人口が235,729人、生産年齢人口が983,679人、老年人口が537,034人であり、老年人口が年少人口を301,305人上回った。また、老年人口は昨年より6,563人増加し、昭和50年からの43年間で2.94倍となっている。

(資料) 国勢調査実施年(S50～H7, H12, H17, H22, H27)は総務省統計局「国勢調査」
その他の年は県統計調査課「熊本県推計人口調査」



本県の老年人口（65歳以上）の全人口に占める割合は年々上昇し、平成30年には30.6%となった。（全国28.1%）

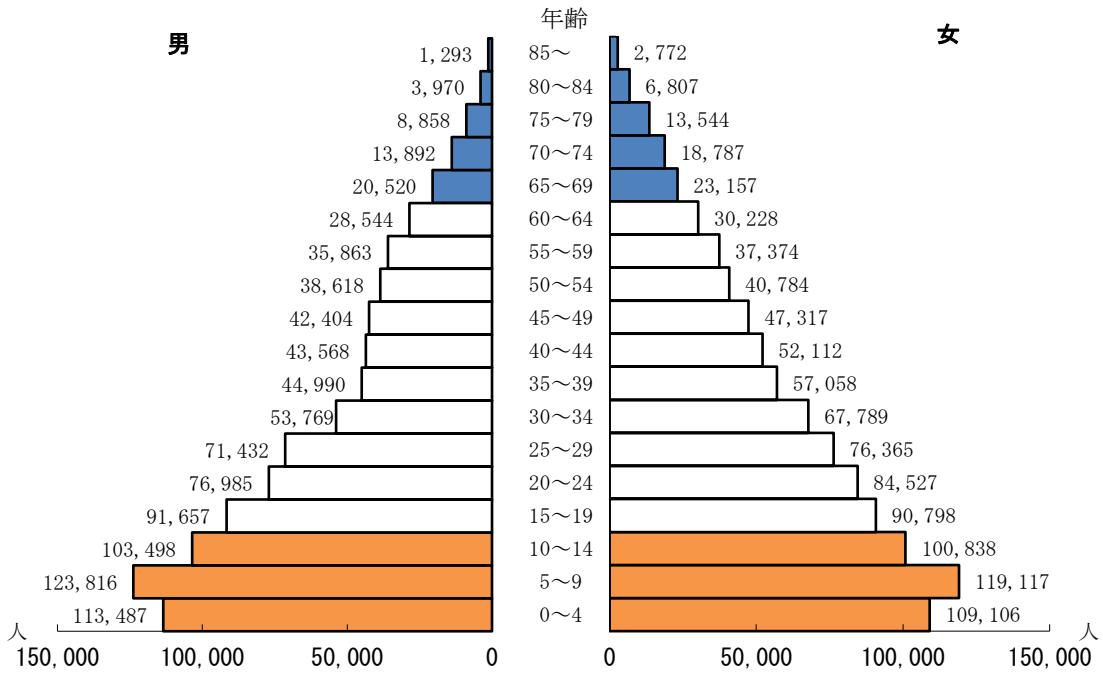
また、75歳以上の人口も本県16.2%、全国14.2%であり、2.0ポイントの差がある。本県は全国より早く高齢化が進んでいるのがわかる。

一方、年少人口（15歳未満）の割合は、わずかながら減少し、平成30年は13.4%（全国12.2%）となった。

資料) 総務省統計局「国勢調査」及び県統計調査課「熊本県の人口」

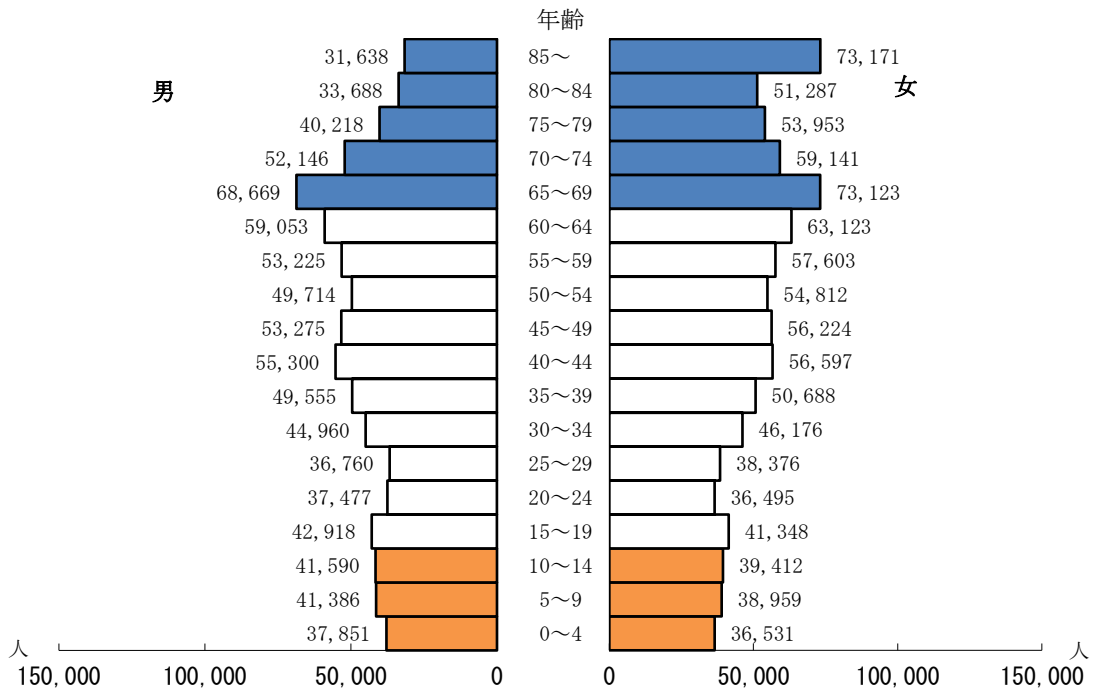
本県の年齢構造を人口ピラミッドの形態で見ると、昭和30年は若い年齢ほど人口が多く裾野の広い「富士山型」であったが、平成30年は65～69歳代が男女共に最も多く、「つぼ型」に近い形となっている。（但し、85歳以上を除く）

昭和30年人口ピラミッド（熊本県）



資料) 総務庁統計局「昭和30年国勢調査」

平成30年人口ピラミッド（熊本県）



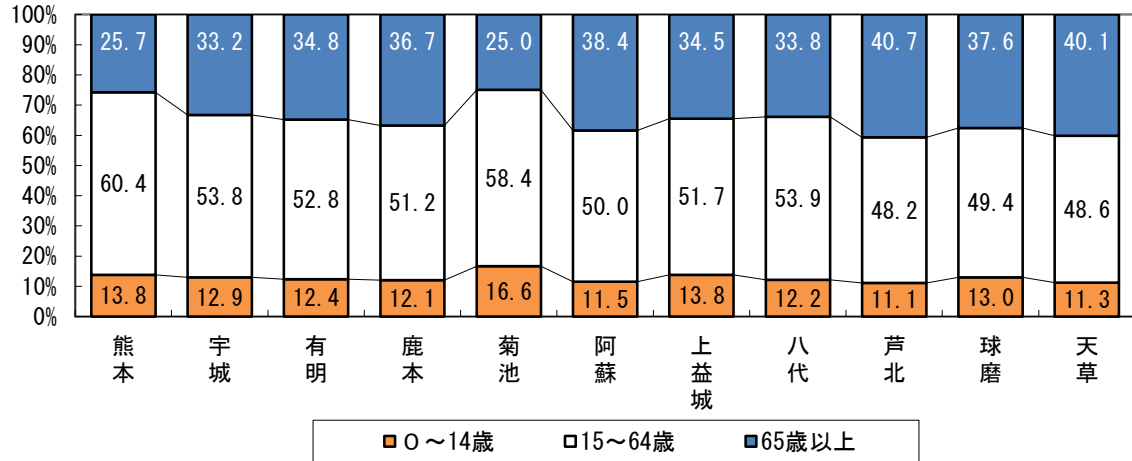
資料) 県統計調査課「熊本県推計人口調査」(平成30年)

(2) 3区分別人口割合は地域間でばらつき

二次保健医療圏別に3区分別人口割合をみると、老年人口（65歳以上）の割合が30%を超えているのは、熊本市、菊池以外の9保健医療圏である。一方で、菊池圏域は25.0%で最小となっている。

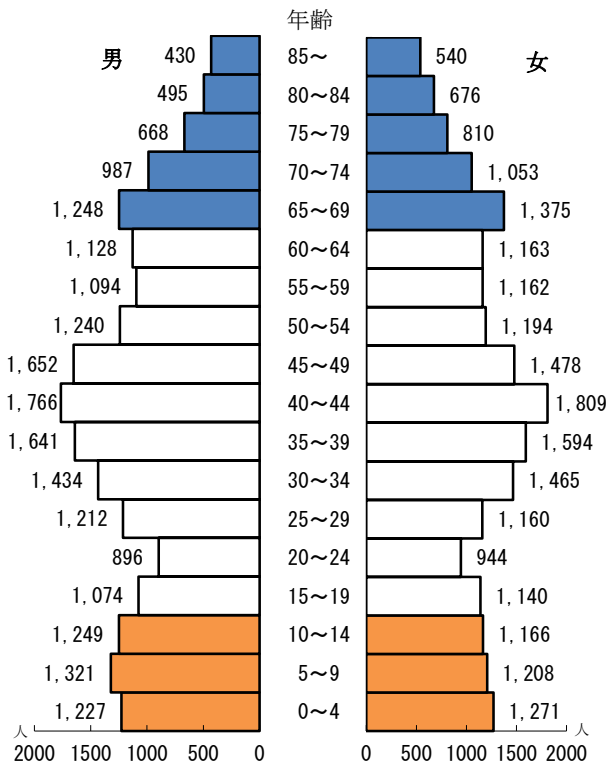
市町村別にみると、老年人口割合が最も大きい五木村が49.0%、最も小さい菊陽町が20.5%となっている。

二次保健医療圏の3区分別人口構成（平成30年10月1日現在）

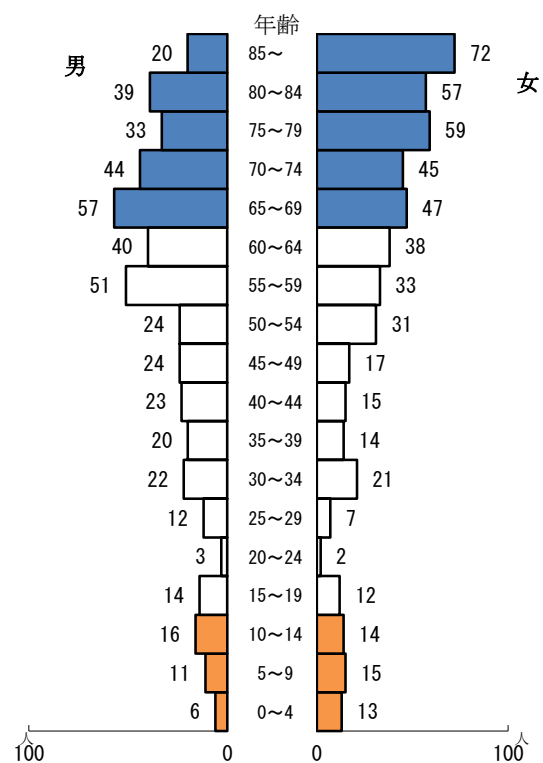


資料) 県統計調査課「熊本県推計人口調査」(平成30年)

平成30年人口ピラミッド
老年人口割合が県内最小 菊陽町

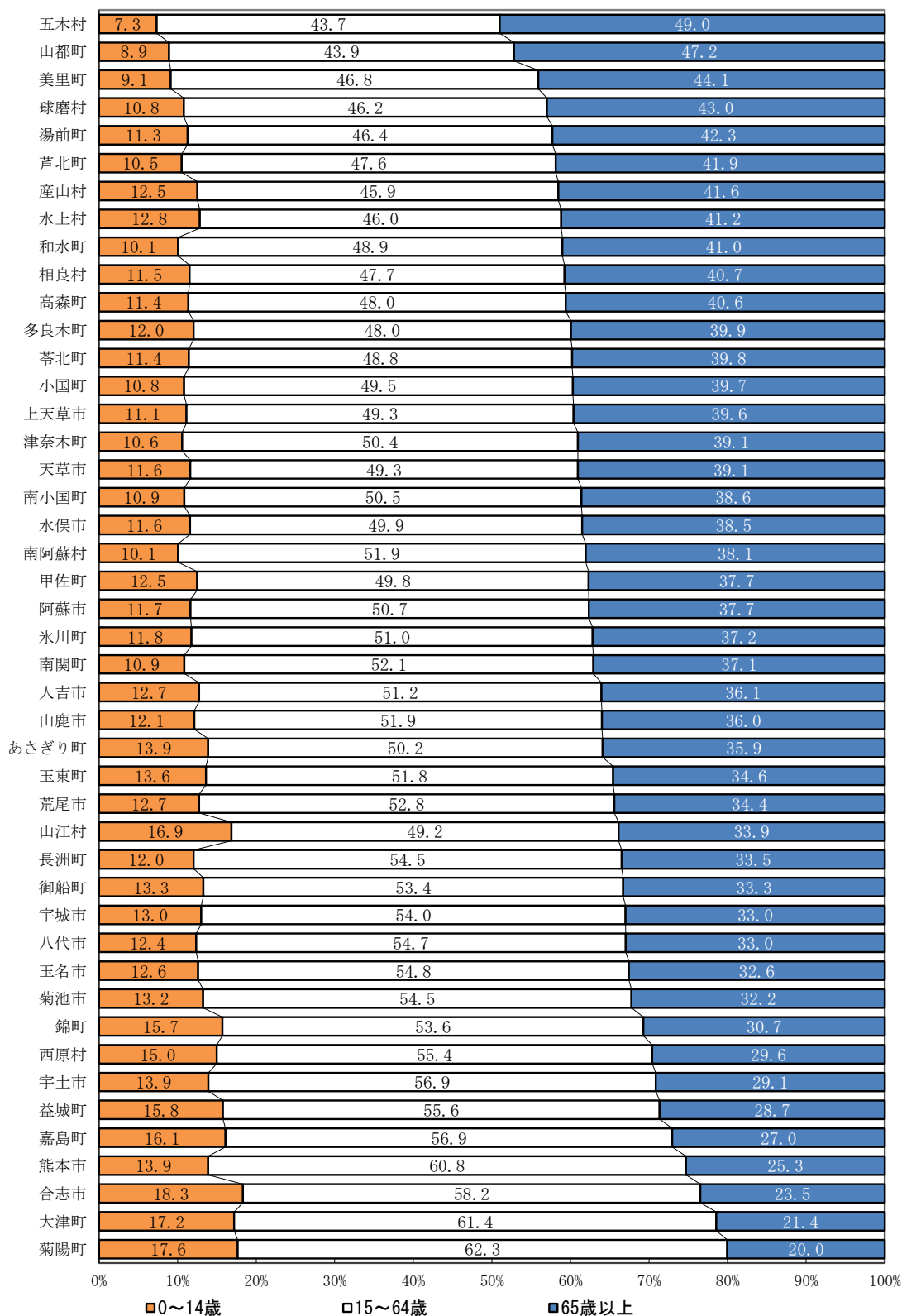


平成30年人口ピラミッド
老年人口割合が県内最大 五木村



資料) 県統計調査課「熊本県推計人口調査」(平成30年)

年齢3区分別人口割合—市町村別—
 老年人口割合が大きい順



資料) 県統計調査課「熊本県推計人口調査」(平成30年)